

迎春



平成26年1月6日(月)発行 【隔月(年6回)発行】

発行部署 : ソリューション営業本部ソリューション営業部  
住所 : 東京都港区芝大門一丁目1番30号  
電話番号 : 03-5408-4620  
発行責任者 : 白土 雄二郎  
お問合せ窓口 : 芝 啓彦

第109号

【目次】

1. 2014年 新年ご挨拶
2. 黒崎支社自衛消防隊 第40回ホース操作大会優勝
3. 衝突被害軽減ブレーキについて
4. LIFEによる物流改善提案のご紹介
5. 場所紹介 ~宇土市の巻~
6. 法務研修会 参加レポート
7. 「JAPAN PACK 2013」参加レポート



## 1. 2014年 新年ご挨拶 ソリューション営業本部 ソリューション営業部長 白土 雄二郎

あけましておめでとうございます。旧年中は格別なるご厚情を賜り、ありがとうございました。

昨年はアベノミクスに牽引され、円安・株高で国内経済が持ち直すも、欧米や中国経済の不安定要素もあり、好況がはっきり実感できない状況でした。また、東アジアでの関係緊張が深まる中、「富士山」「和食」「東京オリンピック」と、日本の価値が世界に再認識された年でもありました。その一方、継続するエネルギー問題と大地震発生への不安、台風・大雨の被害、そして猛暑、食材偽装問題と続きました。流行語大賞も「お・も・て・な・し」他最多の4語も選ばれ、一言で表しきれない、ある意味「じぇじぇじぇ！」な一年だったと言えます。

今年、年初は消費増税前の駆け込み需要で活況となるも、4月以降は消費増税による反動でマイナス要素となります。反面、企業や家計への税制対策や公共投資の押し上げ、米国景気などを通じた円安による輸出環境改善のプラス要素で、景気の腰折れは回避するものと予想されます。今後、こうした事からスピーディに柔軟な物流対応が迫られてくると思います。その為には、コアな要素を感度よく見抜き、適切な戦略を立てて実行していくことが重要と考えます。

物流業界では、軽油価格高騰、環境や安全対策費負担大、そして深刻なトラック運転手不足が表面化しています。「安定的な輸送サービスの供給」は私たちの使命であり、国や物流業界の施策とともにお客様のご理解をいただきながら、この難局を乗り切って参ります。安全QAを基盤にさらにお客様のご要望にフレキシブルに対応し、当社の中期経営計画『MCLC APTIS 15』の2年目の実効を出して参ります。さらに、MCHC Gr.の新コーポレートブランド『THE KAITEKI COMPANY』を支える『KAITEKI物流』の担い手として、お客様と共に力強く駆ける「午(うま)」の如き一年とするべく、取組んで参ります。

先ずは2月にソチ冬季オリンピック、そして6~7月のFIFAワールドカップブラジル大会、スポーツでも熱く盛り上がりたいです。今年も頑張ろう！日本！



## 2. 黒崎支社自衛消防隊 第40回ホース操作大会優勝

2013年11月7日に北九州市防災協会八幡西支部主催の「第40回消防操法大会」が開催され、当社黒崎支社の自衛消防隊チームも参加しました。

屋内消火栓、屋外消火栓、小型消防ポンプと3つの部門で競技が行なわれ、当社は、屋外消火栓の部門に参加しました。八幡西区の各企業／団体より多数の参加があり、今年度は全部で22チームが参加し、当社がエントリーした屋外消火栓の部門は、9チームが参加しました。

屋外消火栓の操法は、指揮者、1番員、2番員、3番員と1チーム4名の編成で、消防ホース3本を延長し、屋外消火栓より放水して、火点を想定した的に当たるまでの時間と各人の動作が審査の対象となります。

当社の自衛消防隊チームは、屋外消火栓の部に毎年参加し、上位の成績を収めていましたが、今回、実に10年振りに優勝することが出来ました。(前回の優勝は、10年前の第30回大会)

また、個人賞として、指揮者以下各番員を対象に、最優秀番員賞が選考されますが、当社チームの2番員(梅本貴徳)が、最優秀2番員賞を受賞しました。

- 指揮者： 山田 智紀(総務部)
- 1番員： 小川 立致(生産物流部2課)
- 2番員： 梅本 貴徳(営業部陸運2課)
- 3番員： 吉川 純平(生産物流部1課)
- 補欠員： 岸川 健一朗(営業部陸運1課)
- 監督： 進 直樹(技術グループ)

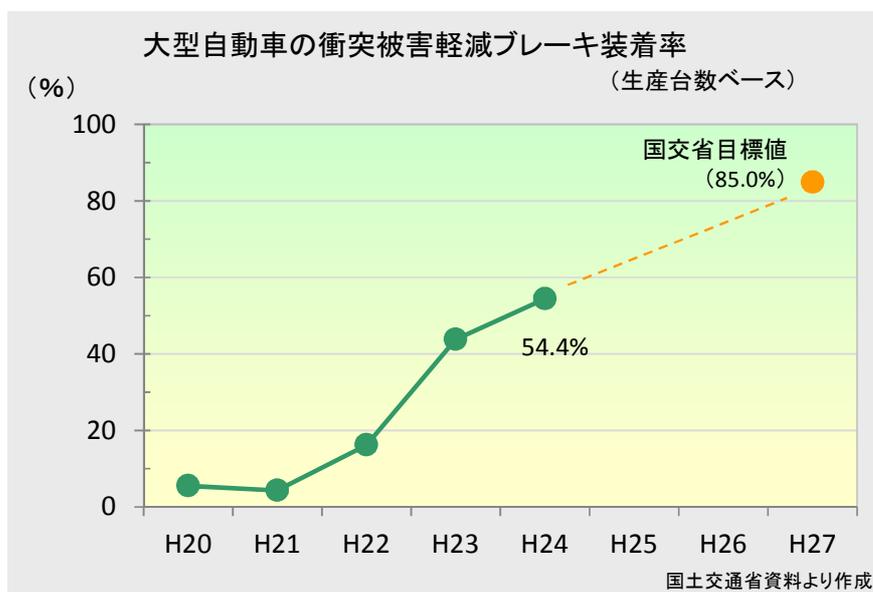


## 3. 衝突被害軽減ブレーキについて

乗用車の衝突回避・被害軽減システムについては、メーカー各社のTVコマーシャルやニュース等で目にする機会も増えており、その性能向上もあいまって認知度・普及率ともに高まっています。

一方、バスや大型トラックについては衝突被害軽減ブレーキの装着義務化が、平成26年11月以降の新型車への適用を皮切りに順次施行されます。昨年11月、国土交通省では車線逸脱警報装置とあわせ、これら安全装置の性能基準について改正を行いました。改正の中身は国連の多国間協定(基準)の採用ですが、国際標準化によりこれら安全装置の普及を更に加速する狙いも含まれているものと考えられます。

右図に示すとおり、大型自動車の衝突被害軽減ブレーキ装着率は年々向上していますが、目的である業界全体の交通事故削減及び事故被害の低減につなげていく事が望まれます。



## 4. LIFEによる物流改善提案のご紹介

当社ソリューション営業部では、物流効率化に関連する活動を「LIFE(ライフ)」と名付け(※)、毎年多くのお客様に対し調査・解析・提案を行っております。

LIFEの活動領域は構内物流・在庫・販売物流・情報と広範囲で、さらにそれぞれのお客様の物流効率化のニーズも多種多様です。LIFE活動においては独自の手法で調査・解析を行っており、その手法については本誌「LIFE TIMES」でも過去に数多くご紹介致しましたが、次号からは今までにご提案した物流改善提案の内容について、一部具体例を交えながらご紹介して参りたいと思います。

ご紹介予定のテーマ(一例)を右図に表しておりますが、本誌読者の皆様にも類似のお悩みがございませんか？

また、当記事で取り上げてほしい物流改善テーマがございましたら、ぜひご連絡ください。

当記事が物流改善の一助になれば幸いです。

<p><b>構内物流</b> 「作業をもっと早く行いたい」「作業に適したレイアウトは？」</p> 	<p><b>物流管理</b> 「なぜか物流事務に時間がかかる」「情報の流れが不透明」</p> 
<p><b>販売物流費</b> 「物流拠点の数/配置は適正か?」「物流費の削減ターゲットがわからない」</p> 	<p><b>適正在庫</b> 「適正な在庫量がわからない」「置き場がない」</p> 

改善提案テーマ (例)

※LIFE : 「Logistics Innovation For Efficiency」 (効率化のための物流改革)

## 5. 場所紹介 ~宇土市の巻~

2013年08月よりA社熊本工場の輸送元請化に伴い、黒崎支社福岡配送センター熊本駐在所を開設しました。当駐在所では現地駐在員1名で熊本工場から出荷される貨物の輸送配車業務及び、工場で輸出用に生産された製品の外部ストック倉庫の管理業務を行っております。

また、これら実務の円滑な運営と共に課せられたのは的確な物流解析と効率化であり、支社を挙げて取り組んでいるところであります。

さて、ご当地宇土市を紹介しますと、位置は熊本市の南側と隣接しており熊本駅から電車で20分位のところにあります。熊本のゆるキャラと言ったら「くまモン」ですが、宇土市は「うとん行長しゃん」が代表キャラです。ここ宇土の地は知る人ぞ知る戦国大名「小西行長公」が治めた土地であり、今でも居城宇土城の城跡が存在しております。余談ですが、あの関ヶ原の合戦の際、西軍で刃を抜いた希少な武将の一人として、慈悲こころ厚いキリシタン大名として、最後は斬首されその生涯を終えますが、地元でいまだに敬愛されているのはその所以なのでしょう。

ところで、宇土の特産品といえば、有明海・八代海でとれる「コウイカ」や「あさり・マテガイ」等の海産物なのですが、お勧めは「うと餅」「小袖餅」です。素朴で可愛らしく優しい甘さはつつい手が伸びてしまいます。お土産にも最適ですよ！

最後に当駐在所は、当社で最も南に位置しております。南九州へ観光等でお出かけの際は是非、宇土の地へ「どっちゃん行かず、きてはいよ?!」



うとん行長しゃん



うと餅・小袖餅

## 6. 法務研修会 参加レポート

12月3日、社内で開催された法務研修に参加しました。

この研修は当社総務部が主催し、トラブル事例を通じてビジネス法務を理解して、社員の法的対応力強化を図ることを目的として開催されました。

研修は、取引先の会社が倒産の危機となった場合の対応方法について、当社で実際にあった2つの事例を紹介し、どのように対応したらよいかを参加者と考えながら行われました。参加者は身の回りで取引先が倒産の危機となるようなトラブルに遭遇したことがなく、まず何をしたらよいか分からない、また、曖昧であるという人が多かったような気がします。今回のポイントは「まず守らなければいけない事は、その業務に関係する会社との契約内容を遂行する」ということでした。契約内容を実行できなければ、損害賠償請求を受ける恐れがあることを認識でき、また、法的視点で物事をみて行動する事が重要である事も理解できました。

いつ、どこで起こるか分からない、自分の身の周りでも起こりうるトラブルの対応方法を理解でき、とても参考になる研修となりました。



## 7. 「JAPAN PACK 2013」参加レポート

2013年10月15日～18日までの4日間、東京国際展示場(ビックサイト)で開催された「JAPAN PACK 2013」に参加してきました。この展示会は、国内外の包装機械、包装資材、包装材料加工機械、食品機械および関連機器の総合展示会で、展示にとどまらず、各種セミナーや実際の商談と活気ある会場の中、4日間で約96,000名の来場者数があったということです。

今回、様々な機器が展示されている中、特に高速、サニタリー(衛生)、SAFETYをうたった最新機器が多かったように感じました。

その中で、ロボット式の自動箱詰めラインのデモを行っている会社が数社ありましたが、非常に高速にアームが動き、まるでSF映画にでてくるロボットを感じさせる機器で印象的でした。その他には既存の保管棚を移動棚化して再生出来る機器の展示は、物流効率化を検討するにあたって即効性が期待出来る機器だと感じました。

今回、初めての参加でしたが包装関連の最新テクノロジーの情報を収集する事ができ、とても収穫の多い展示会でした。



芝のそよ風

ソリューション営業部 園部 光一

新年おめでとうございます。旧年中は本誌をご愛読頂き誠にありがとうございます。  
本誌も5月で初版発行から19年になろうとしています。初版発行当時、生産物流分野で選抜メンバーを編成しLIFE活動を行い、本誌初版発行にも構成から参加した事を懐かしく思います。  
今年の干支は「午」、十二支の中でも最も変化の激しい年とされており、経済も「消費税改定」等々、大きな変化が訪れようとしています。厳しい年だからこそ、ネガティブにならない様、スイッチのオフオンを利かせ「メリハリのある1年を過ごす」のが良いのではないかと私は思います。  
依然として車両不足も続き、決して「視界良好」とはいかない物流業界ですが、目の前の障害を一つ一つ飛び越え「KAITEKI物流」を目指し、皆で頑張りましょう！！